

令和元年6月13日現在

機関番号：32409

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2018

課題番号：26870517

研究課題名(和文)"NICUにおける父親への支援のガイドライン"の開発

研究課題名(英文)Development of "Guidelines for Father Support in NICU"

研究代表者

川合 美奈 (KAWAI, Mina)

埼玉医科大学・保健医療学部・助教

研究者番号：10515919

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、NICUスタッフの支援に対するNICU児の父親のニーズと、NICUスタッフによる父親に対する支援の実態を明らかにした上で“NICUにおける父親への支援のガイドライン”を開発することである。NICU児の父親5名にNICUスタッフの支援に対するニーズを、NICUスタッフ9名に父親に対してどのように支援を行っているかのインタビューを行った。結果を基に質問紙を作成し、全国の総合周産期母子医療センターおよび地域周産期母子医療センター404施設のうち同意の得られた104施設のNICUスタッフ2235名に調査を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

NICUにおける育児支援プログラムやスタッフによる支援は、母親を中心にしたものが多い。NICUスタッフは、育児は両親で行うものと考えているものの、父親への育児支援を十分に行えていない現状がある。NICU児が退院した後、両親が子育てに適應するためには、できるだけ早い段階からNICUスタッフが父親に関わり、父親のネガティブな感情を軽減し、母親と共に育児を担えるように父親への支援を強化する必要がある。研究結果を活用し、各施設の状況に合わせたプログラムの作成に役立てていきたい。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop the "Guidelines for father support in NICU" after clarifying the needs of NICU children's fathers' support for NICU staff support and the actual state of support for fathers by NICU staff. We interviewed five fathers of NICU children about their needs for support of NICU staff and how nine staff members of NICU supported fathers. Based on the results, we made a questionnaire and conducted a survey of 2,235 NICU staff members at the 104 facilities among the comprehensive perinatal maternal and child medical centers and the regional perinatal maternal and child medical centers of which 404 obtained consent.

研究分野：小児看護学

キーワード：父親への支援 父親へのかかわり方 NICU

## 1. 研究開始当初の背景

新生児特定集中治療室(Neonatal Intensive Care Unit, 以下, NICU)に入院する児(以下, NICU 児)の父親は, 父親となる心の準備ができない段階で, 医療的な措置が講じられているわが子と対面し, 児との分離により不安を抱える母親へのサポートや父親役割を担うことが期待され, ネガティブな心理状態にある. このような状態にある NICU 児の父親に対する支援は, 十分とは言えない現状がある. 早産児の両親の心理状況を調査した研究では, 早産児の誕生により, 母親のみならず父親にも不安・驚き・恐怖等の心理的变化が起きることが明らかにされている(小池, 2009). 出産をすることのない男性にとって, 予期せぬ時期の子どもとの対面は, 父親となる心の準備や段階を踏まぬまま, 唐突に父親役割を付きつけられることとなる. このように, NICU 児の父親はネガティブな気持ちを抱き, 父親としての実感を持たず, 母親をサポートする心理的余裕がない状況にある可能性が推察される. また, 父親としての実感のきっかけは, 抱っこ, 授乳, おむつ交換・タッチング等の子どもに触れ, 存在を体感することで得られる(三ツ木・角山・深谷・他, 2009). しかし, 経済的役割を担うことが多く, 日常生活では仕事に 8 時間以上を費やし, 仕事以外の時間をもつ余裕が少ない父親にとって(総務省統計局, 2012), 面会時間に合わせて来院する事は困難であろうし, 子どもとの接触により存在を体感する時間も限られる. だからこそ, 父親が子どもと触れ合い, 父親としての実感を得られるきっかけを NICU スタッフが意図的に提供することが必要である.

これまでに NICU スタッフによる育児指導の実態を調査した先行研究は見当たらず, 父親の育児参加を後押しするような関わりがどの程度行われているのかは明らかではない. そのため, 筆者は北海道内の NICU に勤務するスタッフ 433 名への調査を行い, NICU スタッフが実施する父親への育児指導の実態と父親への育児指導の実施に関連する要因を明らかにした(川合, 2013). その結果, 育児における父親の役割は「育児分担である」と回答した NICU スタッフは 88.6%と大多数であったにもかかわらず, 「父親への育児指導をいつも行う」と回答した NICU スタッフは 23.5%と少なく, 育児指導の項目別にみても母親への実施の割合と比べ有意に低値であった. 父親への育児指導を実施している NICU スタッフは, 有意に父親への育児指導の必要性を認識し, 父親の育児参加に関する学習会に参加していた.

また, 「父親のネガティブな感情を軽減するための関わりを行ったことのある」NICU スタッフは 74.5%と半数を超えており, 多くのスタッフは父親の心理状況に配慮し, 何らかの関わりを行っていた. その一方で, 「父親のネガティブな感情を軽減する関わりをしたことがない」NICU スタッフに対して, 関わらない理由を尋ねたところ, 【全ての父親に対して関わる時間がない】, 【母親と関わるのが主で, 父親のフォローにまで手が及ばない】といった回答があり, 父親と接する機会を持っていない現状が窺われた. さらに【ネガティブな感情をもった人がいない】, 【父親への関わり方がわからない】, 【自分が育児指導に慣れておらず, 関わりまで考える余裕がない】といった回答が得られた. これらの結果から, 父親のニーズにあった支援を実施するためには, 父親の心理や関わり等を学習する機会の提供や, 目標や行動指針の提示の必要性が示唆された.

## 2. 研究の目的

本研究の目的は, NICU に勤務する看護師(以下, NICU スタッフ)の支援に対する NICU 児の父親のニーズと, NICU スタッフによる父親に対する支援の実態や課題を明らかにした上で, これらの知見をもとにして, 父親のニーズに合った「NICU における父親への支援のガイドライン」を開発することである.

## 3. 研究の方法

本研究では, NICU スタッフの支援に対する父親がもつニーズと, NICU スタッフによる父親に対する支援の実態と課題を明らかにするために, NICU 児の父親および NICU スタッフを対象とした調査を行った. まず, NICU 児の父親(5 名)に NICU スタッフの支援に対するニーズをインタビュー調査した. さらに NICU スタッフ(9 名)に NICU 児の父親に対して, いつどのように支援を行っているかのインタビュー調査を行った. そして, NICU での参加観察を実施した.

インタビュー結果を基に質問紙調査項目を検討し, 質問紙を作成した. 全国の総合周産期母子医療センターおよび地域周産期母子医療センター 404 施設のうち 104 施設から調査協力の同意を得られた. 104 施設の NICU スタッフ(2235 名)に質問紙を配布し調査を実施した.

## 4. 研究成果

### (1) NICU スタッフの支援に対する父親がもつニーズ

NICU 児の父親(5 名)に対するインタビュー調査の結果, 父親は「医療者の推奨する育児手技の方法」「経済的な支援制度」「子どものこの先の見通し」「子どもや母親に対する父親自身の行動の利点」について知りたいというニーズをもっていた.

また NICU スタッフの支援に対して, 「情報が多すぎると不安になる」「何が良くて何が悪いかわからない」「何を誰に教えてもらえばいいかわからない」「スタッフの説明内容を実感できていない」「周りを見て確認することで安心する」という初めての状況に戸惑い, 比較ができる経験をもたないことからネガティブな心理を抱えた父親がいる一方で「こまめな説明で安心できた」「スタッフの話で安心できた」等とスタッフの支援

を好意的に捉えている父親もいた。

この結果から、NICU スタッフの支援に対する父親がもつ 20 のニーズが抽出され、これを質問紙調査項目とした。

#### (2) NICU スタッフによる父親に対する支援の実態

NICU スタッフ(9名)に対するインタビュー調査の結果、NICU スタッフは「父親が見ていない時の子どもの様子をありのまま伝える」「父親が見ていない時の子どもの様子をイメージしやすいように写真を撮って伝える」といった子どもの様子の伝え方、「育児手技の実施を父親に強要せず、父親がその気になるのを待つ」「父親の様子を見て、子どもへの前向きな気持ちの変化がみられたら育児手技をすすめる」というような育児手技の獲得のためのすすめ方、「父親の気持ちを推測しながら、父親の話聞く」「ストレスを感じている父親を支えてくれる人がいるかを考える」等といった方法で父親への支援を実施していた。

この結果から、NICU スタッフによる父親に対する 30 の支援内容が抽出され、これを質問紙調査項目とした。

#### (3) 参加観察からみる NICU スタッフの父親へのかかわり方

NICU スタッフは、入室した父親に明るく笑顔で挨拶はするが、そのまま長時間近くにいることはせず、他の業務をしつつも父親の様子を見て、声を掛けるタイミングを図っていた。父親の近くを通過する際には短い言葉でも声を掛けたり、足を止めて手を貸したりしていた。NICU スタッフは、自然な動きの中で父親に話しかけたり、手を貸すことで、圧迫感を与えずに関わっているようにみえた。

#### (4) 質問紙調査の結果

インタビュー調査の分析結果から精選した質問紙調査項目を同意の得られた 104 施設の NICU スタッフ(2235名)に対して配布し調査を実施した。

##### 属性

回収数 1085 名(48.5%)、有効回答者数 1004 名(44.9%)であった。NICU スタッフの年齢は平均 31.2 歳、勤務経験年数は平均 13.0 年、NICU での勤務経験年数は平均 6.4 年であった。

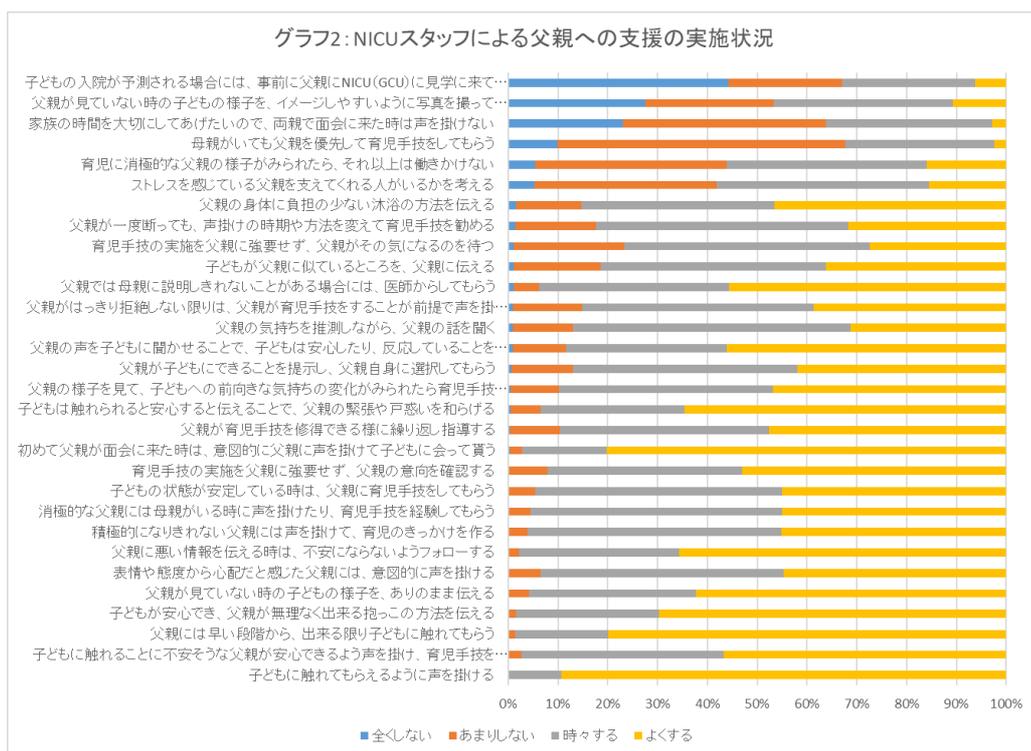
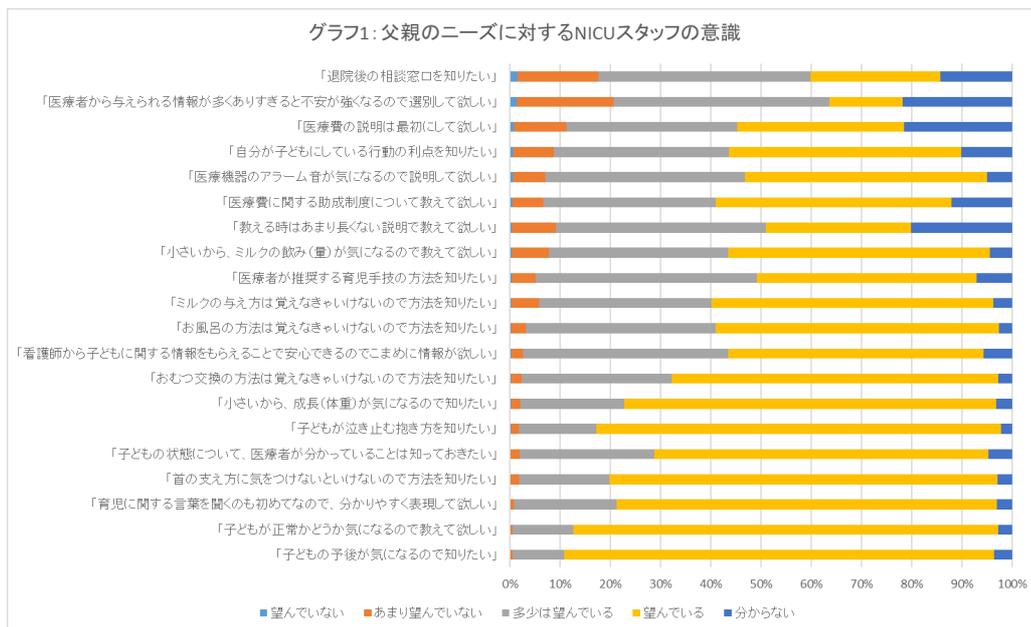
##### 父親のニーズに対する NICU スタッフの意識

父親が次の 20 項目の支援を NICU スタッフにして欲しいと望んでいるかと思うかを NICU スタッフに尋ねた。「子どもの予後が気になるので知りたい」「子どもが正常かどうか気になるので教えて欲しい」「育児に関する言葉を聞くのも初めてなので、分かりやすく表現して欲しい」「首の支え方に気をつけたいといけなないので方法を知りたい」「子どもの状態について、医療者が分かっていることは知っておきたい」「子どもが泣き止む抱き方を知りたい」「小さいから、成長(体重)が気になるので知りたい」「おむつ交換の方法は覚えなさいいけないので方法を知りたい」「看護師から子どもに関する情報をもらえることで安心できるのでこまめに情報が欲しい」「お風呂の方法は覚えなさいいけないので方法を知りたい」「ミルクの与え方は覚えなさいいけないので方法を知りたい」「医療者が推奨する育児手技の方法を知りたい」「小さいから、ミルクの飲み(量)が気になるので教えて欲しい」「教える時はあまり長くない説明で教えて欲しい」「医療費に関する助成制度について教えて欲しい」「医療機器のアラーム音が気になるので説明して欲しい」「自分が子どもにしている行動の利点を知りたい」「医療費の説明は最初にして欲しい」「医療者から与えられる情報が多くありすぎると不安が強くなるので選別して欲しい」「退院後の相談窓口を知りたい」結果はグラフ 1 の通りであった。

##### NICU スタッフによる父親への支援の実施状況

日頃自身が、父親に対して次の 30 項目を行っているかを NICU スタッフに尋ねた。「子どもに触れてもらえるように声を掛ける」「子どもに触れることに不安そうな父親が安心できるよう声を掛け、育児手技を勧める」「父親には早い段階から、出来る限り子どもに触れてもらう」「子どもが安心でき、父親が無理なく出来る抱っこ方法を伝える」「父親が見ていない時の子どもの様子を、ありのまま伝える」「表情や態度から心配だと感じた父親には、意図的に声を掛ける」「父親に悪い情報を伝える時は、不安にならないようフォローする」「積極的になりきれない父親には声を掛けて、育児のきっかけを作る」「消極的な父親には母親がいる時に声を掛けたり、育児手技を経験してもらう」「子どもの状態が安定している時は、父親に育児手技をしてもらう」「育児手技の実施を父親に強要せず、父親の意向を確認する」「初めて父親が面会に来た時は、意図的に父親に声を掛けて子どもに会って貰う」「父親が育児手技を修得できる様に繰り返し指導する」「子どもは触られると安心すると伝えることで、父親の緊張や戸惑いを和らげる」「父親の様子を見て、子どもへの前向きな気持ちの変化がみられたら育児手技を勧める」「父親が子どもに

できることを提示し、父親自身に選択してもらう」「父親の声を子どもに聞かせることで、子どもは安心したり、反応していることを伝える」「父親の気持ちを推測しながら、父親の話を聞く」「父親がはっきり拒絶しない限りは、父親が育児手技をすることが前提で声を掛ける」「父親では母親に説明しきれないことがある場合には、医師からしてもらう」「子どもが父親に似ているところを、父親に伝える」「育児手技の実施を父親に強要せず、父親がその気になるのを待つ」「父親が一度断っても、声掛けの時期や方法を変えて育児手技を勧める」「父親の身体に負担の少ない沐浴の方法を伝える」「ストレスを感じている父親を支えてくれる人がいるかを考える」「育児に消極的な父親の様子がみられたら、それ以上は働きかけない」「母親がいても父親を優先して育児手技をしてもらう」「家族の時間を大切にしたいので、両親で面会に来た時は声を掛けない」「父親が見ていない時の子どもの様子を、イメージしやすいように写真を撮って伝える」「子どもの入院が予測される場合には、事前に父親に NICU (GCU) に見学に来てもらう」結果は以下のグラフ2の通りであった。



## (5) 今後の展望

全体の進行が遅れたために、当初予定していた“NICUにおける父親への支援のガイドライン”の開発を期間内に終えることができなかった。今後は、質問紙調査の結果を分析・整理し、ガイドラインの作成や実際の運用の効果について検討したい。

<引用文献>

小池伝一, NICU 入院期間中の超低出生体重児の両親の家族形成過程, 日本新生児看護学会誌, 15(1), 2009, 20-27

三ツ木愛美, 角山智美, 深谷悠子, 小林美幸, 大野美津江, NICU における父性育成に向けた援助と対児感情の変化, 日本農村医学会雑誌, 58(2), 2009, 90-93

総務省統計局, 平成 23 年社会生活基本調査 生活時間に関する結果要約, 2012, 3

川合美奈, NICU スタッフによる父母への育児指導の必要性の認識と実施状況, 北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 9(1), 2013, 81-85

5. 主な発表論文等

現在, インタビュー調査結果の発表準備をしている。今後は, 質問紙調査結果をまとめて, 発表・論文投稿を予定している。

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

科研費による研究は, 研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため, 研究の実施や研究成果の公表等については, 国の要請等に基づくものではなく, その研究成果に関する見解や責任は, 研究者個人に帰属されます。